



Monthly Report

株式会社楽天野球団とアカデミックパートナーシップを締結



協定書締結式に参加した朴澤理事長・学事顧問と楽天野球団立花陽三社長（右から2人目）ら

3月15日（木）本学LC棟1階において、学校法人朴沢学園仙台大学は、東北楽天ゴールデンイーグルスの運営会社である株式会社楽天野球団と「アカデミック・パートナーシップ」を締結しました。

この取り組みは、双方の人的・物的・知的資源の活発な交流と活用を図り、もって地域活性化への貢献とスポーツ振興に寄与するとともに、相互により一層の充実と発展を遂げることを目的としています。

平成30年度の具体的プログラムは、各々の専門コースで学んでいる学生が、その学修成果の実践研究を行うことを目的にプロスポーツの現場を体験したり、プロスポーツの現場で実際に活躍されている球団の専門家が大学の教壇に立ち、自らの経験とノウハウを学生に伝授したりと、仙台大学の人材や施設など有形無形の資産をプロ野球球団が活用することが予定され、将来に向けて相互資産の相互活用に取り組んでいくこととなります。

本学では在仙のプロスポーツチームとのアカデミックパートナーシップの締結により学生の学修環境の充実に努めており、今回の締結はBリーグ 仙台89ERSとの締結に次ぎ2例目となります。

〈目 次〉

株式会社 楽天野球団とアカデミックパートナーシップを締結	1
第48回 仙台大学体育学部卒業証書学位記授与式並びに第19回大学院学位記授与式を挙行	2
2018 平昌オリンピック男子スkeleton競技OB高橋弘篤選手と宮嶋克幸選手が学長を表敬訪問	3
平成29年度 陸上競技部(投てきブロック)春季強化合宿 台湾台東大学附属高等学校で今年も実施	
平成29年度 健康づくり運動サポーター認定証書授与式を開催	4
佐々木琢磨新助手が 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会会長表彰で会長賞、第1回JDAAアワード特別賞を受賞	
H29年度 日米スポーツ科学事情比較セミナー 国際交流締結校 カリフォルニア州立大学ロングビーチ校研修	5
ハワイ州立大学マノア校 アスレティックトレーナービギナー研修	6
中国瀋陽師範大学短期研修と両大学協定10周年記念イベントへ参加	7
阿部芳吉学長を送る夕べを開催	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通 0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

第48回 仙台大学体育学部卒業証書学位記授与式並びに第19回大学院学位記授与式」を挙行



3月17日（土）、本学第五体育館を会場に「第48回体育学部卒業証書学位記授与式並びに第19回大学院学位記授与式」が挙行されました。

今年度は体育学部549名（うち、国際交流締結大学である台東大学（台湾）とのダブルディグリー制1名）の卒業生と大学院21名の修了生が社会に巣立ちました。

阿部芳吉学長は学長告辞で「仙台大学で学べたことを社会活かし、それぞれの未来に向け活躍を期待しています。」と卒業生と修了生へ向けはなむけの言葉を送りました。

朴澤泰治理事長・学事顧問は「今日卒業を迎えられる皆さんは開学50周年という大きな節目

の時に社会へ巣立たれます。2020東京オリンピックを控え特に『支えるスポーツ』の機能の重要性に対する認識が高まっています。体育スポーツ・健康科学分野の学問を修めここに集っているみなさん全員が仙台大学での経験を活かし社会を担って頂くことを期待しています」と挨拶されました。

卒業生を代表し健康福祉学科の松崎朋香さんは「卒業生を代表し、私たちを支えてくれたすべての方々に心より御礼申し上げます。」と答辞を述べました。

式中には学生表彰式も行われ、平昌オリンピックスケルトン競技に出場した宮嶋克幸さんが学長賞を受賞したほか、スポーツや文化活動などにおいて優秀な成績を修めた学生に、スポーツ功労賞、文化功労賞、日本介護福祉士養成施設協会会長賞、全国栄養士養成施設協会会長賞、JPSU認定スポーツトレーナー資格取得者表彰、同窓会賞などが授与されました。



大学院修了生集合写真



JPSU認定スポーツトレーナー資格取得者



阪神ドラフト1位入団馬場卓輔投手も卒業式へ参加

2018 平昌オリンピック男子スケルトン競技出場 OB高橋弘篤選手と宮嶋克幸選手が学長を表敬訪問



写真左から高橋弘篤選手、阿部芳吉学長、宮嶋克幸選手

3月22日（木）平昌オリンピック男子スケルトン競技に出場した、本学OBの高橋弘篤選手（平成19年体育学科卒）と宮嶋克幸選手が（H30年3月卒業）学長を表敬訪問しました。大会を振り返りソチ五輪で12位だった高橋弘篤選手は「学長先生には現地まで応援に駆けつけていただきありがとうございました。今大会は22位で悔しい結果となりこのまま終われない気持ちです」と話し、五輪初出場で26位の宮嶋克幸選手は「子どもの頃からの夢だったオリンピックの舞台は最高の舞台でした。2022年の北京五輪に向けて努力を重ねています」と話しました。

平成29年度 陸上競技部（投てきブロック）春季強化合宿 台湾台東大学附属高等学校で今年も実施



3月1日（木）から8日（木）まで陸上競技部（投てきブロック）春季強化合宿を台湾台東大学附属高校で実施しました。本合宿は昨年に引き続き2回目の実施となり、今回は19名の学生が参加しました。昨年は天候があまり良くなく、雨の日が多かったのですが、今回は連日晴天で気温も30度を超える日もあり、大変恵まれた状況でトレーニングを積むことができました。昨年の経験があるため、移動、食事、宿舎等さまざまな面で見通しを持って取り組み、よりトレーニングに集中することのできる合宿となったと思います。冬期トレーニングのまとめとして、温暖な気候下で連日投げ込みを行い、良い感触を得ることのできた学生がほとんどで、4月からのシーズンインに向けて良い準備ができました。

また、国際交流として、昨年同様、台東大学附属体育学校の陸上競技部の中・高校生との合同トレーニングを実施し、昨年は記念としてTシャツをいただいていたので、今回は仙台大学50周年記念Tシャツをお土産として持参し、トレーニング終了後部員全員にプレゼントすることができました。本学の学生も言葉が通じないけれども、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢が見られ貴重な経験となりました。

今回も昨年同様、台東大学の沱教授、附属高校の林校長先生をはじめとする数多くの方々にご支援をいただきました。感謝申し上げます。この恵まれた環境下での合宿が4月からのシーズンにおいて良い結果に結びつくよう、今後も学生とともに目標に向かって、日々取り組んでいきたいと思っています。

（報告：陸上競技部コーチ 講師 宮崎 利勝）



「平成29年度 健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催



平成30年3月16日（金）に健康づくり運動サポーター（以下、健サポ）の認定証書授与式を開催しました。今回は平成29年度前期及び後期の資格認定評価会で認定された初級20名、中級6名、上級5名の計31名に対して認定証書が授与されました。今回の認定者を含めこれまで延べ550名が本資格を取得してきました。

今回、上級を取得した加藤瑞稀さん（健康福祉学科3年）は「上級実習を行うにあたり、学生や教職員、地域の役員の方々など多くの協力や支援がありました。私は将来、特別支援の教員になりたいと思っているため、今回の経験を今後の目標につなげていきたいです。」とコメントしました。

また今年度は、留学生の資格取得者も多く、台湾・台東大学出身の林姿婷さんは「中級の資格取得に向けて頑張ります」と今後の抱負を述べました。

この資格取得には、地域の健康教室での現場実習や指導実習が必要となります。実際に地域の方々に関わりながら、学生はコミュニケーション力や指導力、ホスピタリティを身に付けます。地域の方々には、健康教室への参加や学生との交流が、生きがいや楽しみのきっかけにもなっています。

多くの学生がこの活動を経験し、「安全に」「元気よく」「楽しい」運動指導のできる実践力を身に付け活躍できるよう今後も尽力していきます。

（報告：スポーツ健康科学研究実践機構 新助手 松浦理沙）



佐々木琢磨新助手が 公益財団法人日本障がい者スポーツ会長表彰で会長賞、第1回JDAAアワード特別賞を受賞



トルコサムスン夏季デフリンピック陸上競技4×100mRでアンカーを務め、日本初の金メダルを獲得した、佐々木琢磨新助手（本学健康福祉学科卒）が2月22日に公益財団法人日本障がい者スポーツ会長表彰で会長賞を受賞しました。

2月24日にはパシフィコ横浜において行われた第1回JDAAアワード特別賞も受賞し、ファン投票の獲得数1位ということで「ファン賞」も併せて受賞しました。

佐々木琢磨新助手は「大変名誉な賞を受賞し身の引き締まる思いです。今後も日本だけでなく世界からも愛される存在となれるよう努力していきます。私も含め一人でも多くの聴覚障害をもつアスリートを知っていただき応援していただけたらと願っています。これからも感謝を忘れずに、仙台大学陸上競技部の先生方の指導を仰ぎながら、素直な気持ちで日々精進していきたい」と手話と筆談で話してくれました。

平成29年度 日米スポーツ科学事情比較セミナー 国際交流締結校 カリフォルニア州立大学ロングビーチ校研修



2週間のプログラムを終了し、修了式にて

2018年2月18日～3月4日にかけ、学生7名、教職員4名がカリフォルニア州立大学ロングビーチ校（CSULB）で実施された「H29年度日米スポーツ科学事情比較セミナー」へ参加するため渡米しました。参加学生は体育学科より永野晃太郎（3年）、柏木一心（2年）、阿部進之介（2年）、佐々木連（2年）、鈴木瑛（2年）、健康福祉学科より土岐康志郎（2年）、運動栄養学科から高橋早苗（2年）、引率者は前半の1週目に桑原康平講師、2週目に池田敦司准教授、途中の2月21日～24日までマイケル・マンキン担当課長が合流し、全日程を弓田恵里香が引率しました。滞在中は最低気温が5度前後、最高気温も15度前後と、これまでで最も寒い2週間となりましたが日本では見られないような濃い青空は例年通りで、カリフォルニアらしい日差しを感じ充実した研修となりました。

今年は本学の研修をCSULBで実施するようになり、10年目という節目の年でした。これまで少しずつ要望を出したり先方からの提案をいただいたりしながら、研修内容は非常に質の高いものへと変化してきていると感じます。プログラムのベースには「スポーツ栄養」と「スポーツビジネス」がありますが、いまでは「コーチング」や「フィットネス」に関する講義も組み込まれています。基本的には、毎年参加する学生の興味関心を個人面談で事前に確認したうえで、それらを先方へ伝え研修内容を組み立ててもらおうようにしています。よって、学生は現地入りする前から具体的な問題意識や学習意欲を持ち、研修に臨んでいると思われます。今回は積極的に質問する姿や頑張って英語でコミュニケーションを取るなどの意識や姿勢が垣間見える場面が幾度ありました。

過去のプログラムと大きく違った点は、これまでの講義・施設見学・スポーツ観戦に加え、滞在中に大学のスポーツ施設を実際に利用できたことと、現地学生によって企画された交流時間が設けられたことでした。CSULBには、24時間利用できる立派な学生専用のスポーツ施設があります。トレーニング

マシンはもちろん、屋外プール、ビーチバレーコート、バスケットボールコート3面、屋内ランニングトラック、ボルダリングウォールなどが設置されています。例年はこの施設を一部見学する程度でしたが、今回は午前中を使って実際に利用することができました。その中で、現地学生の大学生活やライフスタイルを感じ取れたのではないのでしょうか。

交流の時間では、スポーツ心理学を専攻する大学院生20名ほどが参加し、本学の学生とアイスブレイクゲームやサッカーを楽しみました。

ランチに

は、南カリフォルニア地域で有名なIn-n-Out（ハンバーガーショップ）のハンバーガーとフライドポテトを準備

してくれており最後にはプレゼントまでいただきました。本学の学生は知っている英単語を並べ、また、ジェスチャーを使いながら楽しそうにコミュニケーションをとっていました。アイスブレイクゲームではもちろん、スポーツという共通の「言語」を通じ新たな友情が芽生えたのは間違いありません。



現地学生とサッカーを楽しんだ後の1枚



今では、FacebookやInstagramがあるため、今後も気軽に連絡を取り合うことができると考えられます。

今回も、多くの方々のおかげで大変充実した研修となり、感謝いたします。CSULBとの関係もさらに強化することができ、今後も様々な形で国際交流が進むことを願っています。

（報告：講師 弓田恵里香）

ハワイ州立大学マノア校 アスレティックトレーナービギナー研修



今年で15年目、通算26回目となるハワイアスレティックトレーナービギナー研修が、2月19日～27日の日程で実施されアスレティックトレーナー部のみならず、様々な部からも9名が参加しました。引率は山口准教授、荒牧講師、佐藤広報室長、新助手鈴木のぞみの4名が参加しました。

今年1月にハワイ大学Kinesiology and Rehabilitation Science (KRS) 元学科長であるDr.ムラタが教育学部・学部長に就任し、KRSの学科長にDr.クリス・スティックリーが就任しました。オープニングセレモニーでDr.ムラタ学部長からは、昨年11月に開催されたIFEでの仙台大学からのおもてなしに対し、心から感謝したいとのお言葉をいただきました。Dr.スティックリーからは、「仙台大学は我々にとって特別な存在であり、今後も友好的な関係を築いていきたい」とご挨拶いただきました。

参加学生はハワイ大学内学生寮に宿泊しましたが、本学OBで元アスレティックトレーナー部の村上泰司くんが同寮に滞在中で、交流することもできました。村上くんは現在ハワイ大学大学院への進学準備中で、英語のクラス中心に入学に必要な科目を履修中です。睡眠を惜しみながら懸命に課題に取り組み、アスレティックトレーニンググループでのボランティアも並行して行い、大変そうな様子でしたが「とても充実している」とのことでした。参加学生らは、そのような先輩の姿を間近で見て刺激を受けたと話していました。



本研修で参加学生らが最も苦労するのは英語でのコミュニケーションです。今回も、現地学生らと英語で他己紹介や交流を行い、現

地授業への参加、アスレティックトレーニンググループ見学、クロージングセレモニーでのスピーチなど、英語を使用する機会がたくさんありました。事前研修で簡単なシチュエーション別の英会話は練習しましたが、現地に入るとそれだけではとても足りない様子でした。積極的に話そうとした学生も、そうなれなかった学生も、研修終了後口々に「英語は苦手だったが今はもっと英語を話せるようになりたい」「自分の世界を広げたい」と学習意欲を高めていました。大学側としてこのような学生らの意欲をサポートできるよう、日常的に英語に触れる機会を増やしていく取り組みが必要かと思えます。

ビギナー研修では、英語の必要性を認識しその後の学習に繋がれる事と、アメリカと日本でスポーツを取り巻く環境の違いを学べる事が大きな魅力であると思えます。広大なスポーツ施設、学業サポート、医科学的サポート、奨学金、大学スポーツファンの多さ、大規模なキャンパスなど、現地は多くの刺激に溢れています。来年度もより多くの学生に、この研修を体験してもらい、自分たちの可能性を発見してくれることを願っています。ハワイ研修はアドバンスもありますので、そちらに参加を希望する学生には英語教育の強化と、確かな目的を持って参加する事を促し、より良い経験を積んでもらえるよう尽力していきたいです。

(報告：新助手 鈴木のぞみ)



教育学部・学部長に就任したDr.ムラタ学部長のオフィスで



中国 瀋陽師範大学短期研修と両大学協定10周年記念イベントへ参加



3月10～20日の間、郡山孝幸教授、馬佳濛准教授が本学3名の学生を引率して瀋陽師範大学で短期研修を行いました。

本プログラムは平成29年度JASOO奨学金に採択され実施したものです。これまでと同様に瀋陽師範大学国際教育学院および体育科学学院より熱烈的な歓迎を受け、大変充実したプログラムを用意して頂きました。プログラムは武術と中国語がメインで、武術の受講ほかプロ選手の武術パフォーマンスも鑑賞しました。また中国京劇体験、中国伝統楽器鑑賞のほか、今回新たに組み込まれた実技の民族スポーツ



「珍珠球」授業や中国伝統手芸泥人形体験、日本語学科の学生との交流会を通じ中国文化を深く知ることができました。さらに、日本・タイ・モンゴル・中国4カ国の運動会も用意

され楽しい競争の中、他の国から来る留学生とも交流を深めることができ3名の学生にとって収穫多き充実した研修となりました。松浦充孝さん（現代武道学科3年）は瀋陽師範大学に来るのが今回2回目（1回目は海外武道実習に参加）異なった体験もできたようです。武術授業では王強先生から散打、長拳、通腕拳、刀術などを教わり中国武術について理解を深めました。授業後、磯崎彩喜子さん（現代武道学科2年）は「先生がきめ細かな指導をして頂き中国武術に興味を持ち今後も深く学びたいと思います」と語った。中国語の授業も初級ながら一生懸命学び、閉講式の際には3人とも中国語で研修感想を発表し先生方からの高評価を得ました。研修終了後に安倍大晟さん（現代武道学科2年）が「今回の研修では良い経験ができました。瀋陽師範大学の先生方や学生のみなさんがとても親切で楽しく過ごすことができました。機会があればまた戻って勉強した

いです」と熱く語りました。

本学卒業生で、現在中国国費留学をしている橋本太輔さんは何事も積極的に取り組み、現地の教職員からの絶大な信頼を受けており、今回は流暢な中国語でサポートに加わってくれました。

今年は、瀋陽師範大学と仙台大学が協定を締結し10周年の節目を迎えます。瀋陽師範大学では、このことをとても重要視しており、記念Tシャツも作られ今回の参加者全員に配られました。記念イベントとしては今回の短期研修がキックオフとなり、今後は6月に短期研修で瀋陽師範大学体育学院の10名程度の学生が来学、9月には海外武道実習の実施で瀋陽師範大学を訪問することが予定されており、その際に例年行われる全大学運動会にゲスト「仙台大学チーム」として参加することが企画されています。この他、健康増進の分野において、両大学で「幼児」および「成人」の2つの共同研究プロジェクトの実施が合意されてます。「幼児」については、今回測定対象となる瀋陽市皇姑区実験幼稚園を見学するとともに測定説明会を行い、4月から身体活動量の測定が開始される予定です。仙台大学においては「幼児」は南三陸町や福島県国見町、「成人」についてはリコージャパンでそれぞれ身体活動量の測定を実施しており、いずれのプロジェクトも縦断的研究を計画し、さらに部活動の交流や学術講演会なども視野に入れた計画が進められています。

瀋陽師範大学では、国際交流締結から10周年という節目に際し今後両大学の関係について、より幅広く、深い交流を展開しようとしており、真の国際交流を求め学生教育に尽力してこられた瀋陽師範大学の先生方に改めて感謝の意を表します。

（報告：准教授 馬佳濛）



阿部学長 を送る夕べを開催



平成30年3月31日をもって勇退された「阿部芳吉学長を送る夕べ」がホテル原田inさくらにおいて3月27日に開催されました。

発起人を代表して鈴木省三副学長が開会の挨拶をし、これまで仙台大学の発展のために尽力された阿部芳吉学長のご功績などが紹介されました。その後朴澤理事長・学事顧問からの祝辞で、阿部学長が大学に着任する前のエピソードが紹介され、改めて固い絆を感じることができました。

また、親睦会早川幹事長からは親睦会を代表し記念品が贈呈され菅野恵子助教からも花束が贈呈されました。締めのご挨拶として井上教授からは学生募集での思い出話などが語られました。

当日は100名を超える仙台大学の教職員が集まり阿部学長を囲む輪は、会の終了まで絶え間なく続きそれぞれが思い出話に花を咲かせました。

最後に教職員が互いに手を取りアーチをつくって和やかな雰囲気でお見送りしました。

